

民間の調査によると83.3%の方が五月病で業務に影響があったことが判明しました。五月病で業務に集中できなくなった方が半数以上、その原因が社内・社外の人間関係である方が4割弱、会社をやめたいと思った人が6割となっています。この時期、新入社員に対しての接し方にも人権感覚が求められます。単に仕事ができない、滞っていると思うだけではいけません。その人に寄り添い、人格を尊重しながら人を想う気持ちが必要です。それは職場の雰囲気や士気にも影響します。人権感覚があるなしで、仕事も成果も大きく変わります。人権感覚磨き、よりよい職場環境にすることも、リーダーや上司の務めだと思います。 ※株式会社識学、五月病に関する調査より (2022年5月9日)



マスクの習慣化について考える

屋外で人との距離2m以上ならマスクを外すことを推奨（政府見解）

新型コロナウイルスの流行が始まってから2年余りが経ち、マスクを着用する生活が当たり前になりました。最近でも、屋外で人との距離が十分あるのに、マスクを付けて歩いたり走ったりしている人を多く見かけます。

確かに、人との距離が近い「3密」の環境では、マスクを着用することで、ウイルスを含む飛沫の拡散をある程度防ぐ効果はあります。しかし、屋外で人との距離が離れている場合は、マスクを付けなくても感染の心配は不要と考えられます。マスクを着用していると呼吸がしにくくなるため、特に運動時には心拍数や呼吸数が一層上がり、とりわけ猛暑日には熱中症にかかりやすくなります。

政府の松野博一官房長官は今月12日の記者会見で、新型コロナウイルス感染対策としてのマスク着用について「大変重要」との認識を示した上で、「気温や湿度が高い時には熱中症のリスクも高くなるため、屋外で人との距離が2メートル以上確保できている場合にはマスクを外すことを推奨している」と述べました。

ただし、屋内も含めたマスク着用全体のあり方については、「感染状況やウイルスの特徴も踏まえ、専門家の意見を伺いながら検討していく」とのことです。こうした新たな情報も踏まえて、「どのような場面でマスクを付けたり外したりすべきか」を、家庭や職場、学校などで話し合うことが大切だと思います。

体育の授業（運動時）におけるマスク着用は不要（文科省の見解）

山梨県は、「新型コロナウイルス感染拡大防止への協力要請」(学校関係者向け)で、中学校、高等学校及び特別支援学校における部活動に際しては、「運動時においてもマスクのインナーフレームの活用や運動強度を調整するなどの工夫をしながら、原則マスクを着用した状態を維持するとともに、身体活動を伴わない場面では、必ずマスクを着用させてください」と要請しています。

しかし、文部科学省のホームページ「学校における新型コロナウイルス感染症対策に関するQ&A」の中の「学校ではマスクの着用が必要ですか」には、以下の記述があります。「学校教育活動においては、児童生徒等及び教職員は、身体的距離が十分とれない時はマスクを着用すべきと考えられます。ただし、気候の状況等により、熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断される場合は、マスクを外すこととしています。

また、体育の授業におけるマスクの着用は必要ありません。特に呼吸が激しくなる運動を行う際はマスクを外してください。一方で、用具の準備や片付けなど運動を行っていない際は、感染症対策として可能な限りマスクを着用してください。」等と記しています。

このように、国と山梨県で見解が異なるような場合であっても、それぞれの学校等では、子どもの健康を守ることを最優先して判断をされるよう望みます。

活動報告

人権移動教室 5月11日(水) 甲府市立貢川小学校において、人権移動教室を開催しました。



人権移動教室の授業を受けた子供たちの感想文が、裏面にご覧いただけます。



国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチ
特定非営利活動法人横浜国際人権センター山梨

会長：横山隆史

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1 階事務室
TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 <http://yamanashi.yihrc.or.jp/> E-mail. yamanashi@yihrc.or.jp

協賛企業：(株)成心設備、西関東開発(株)、(株)ウィルマート、(株)R&C、(株)フジコー、(株)渡辺工業所、甲府市管工事協同組合

<協賛>
山梨県
甲府市
甲斐市

国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチだより (2022年5月号)

甲斐市立玉幡中学校 (男子)

()組()番氏名()

☆ 今日の講話をきいて感じたことをかいてみよう!

僕は今回の講話を聞いて改めて「人権」という言葉を知りました。「人権」は難しいことではない、誰もが1分1秒忘れないといけないことなのだと知りました。僕は日本に生まれてよかったと思いましたが、自分が知らない所へ起こっている争いがどれだけ辛いことなのかもビデオを見て実感しました。亡くなった人を簡単に「死」というのはなく山梨県民以上にもおと下にいるという「死」ということにも驚きました。また、お年寄りの方に席をゆずるなど小さなことでもしたいと思いました。ボランティアやお金などにも積極的に行っていきたいと思いました。今回の講話では命だけではない幸せということも知ることができたいい機会になりました。

甲斐市立玉幡中学校 (女子)

()組()番氏名()

☆ 今日の講話をきいて感じたことをかいてみよう!

今日の講話を聞き、「あわせになりたい」「死にたくない」、この2つの願いを守ることを人権というのを初めて知りました。日本以外の国ではたくさんの方が殺されてしまったり、栄養失調で苦しんでいる人がいたり、水道から出る水を飲むことができなかったり、日本に住んでいなくても水道水をそのまま飲めたり、本当に日本人はあわせ者なんだと改めて感じました。権力争いで死んでしまった人の命と一緒に、命を大切に生きていけると思えました。私たちが生きていられるのは、私たちが知らない所で争えたりから。だから、自分を大切にしている人だけじゃなく、あけずけず生きていくことが大切。そういうことをたくさん学びました。生きてい

人権移動教室に参加した子どもたちの感想文をご紹介します。